

平成22年度学習状況調査について

【今年度の結果概況】

- ・本県の学力状況は、おおむね満足できる状況であり、特に小学校は良好な状況であるが、中学校第1学年、第2学年で課題がみられる。
- ・学習に対する意欲は、国の状況に比べて良好であり、経年比較においては昨年度よりも向上している。
- ・教科の学習が好きと答えた児童生徒は、昨年度と同程度であり、国の状況を大きく上回っている。

【昨年度からの変更点】

算数・数学学力向上支援Webページを活用して、学習状況調査結果集計・分析システムを構築した。各学校が自校の結果を直接登録できるようになり、次の点が改善された。

(変更の理由)

- ①グラフが自動作成されるので、各学校及び関係機関において経年比較や多様な分析がこれまでより早く、また容易にできる。
- ②データの提出や集計に係わる各学校及び関係機関の負担が軽減された。

1 ペーパーテストの結果

※設定通過率の+10%を超えるか同程度(設定通過率±10%の範囲内)を「おおむね満足」な状況とする。

(1) 小学校の平均通過率

全ての学年、教科で設定通過率-10%のラインを上回っており、おおむね満足な状況にある。

その中でも、国語以外の教科は平均通過率が設定通過率を上回っており、良好な状況にあるといえる。

平成22年度小学校の県平均通過率(正答率)

	県平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	
			0% 100%
4年国語	64.9%	70.0%	
4年算数	80.2%	74.5%	
4年理科	81.6%	74.0%	
4年合計	75.6%	72.8%	
5年国語	67.1%	70.0%	
5年社会	79.2%	74.5%	
5年算数	75.4%	72.5%	
5年理科	76.4%	75.0%	
5年合計	74.5%	73.0%	
6年国語	67.1%	71.8%	
6年社会	75.4%	72.5%	
6年算数	73.8%	71.0%	
6年理科	76.0%	74.5%	
6年合計	73.1%	72.4%	

(2) 中学校の平均通過率

中1・2の国語と数学、理科が設定通過率－10%のラインを下回った。

平均通過率が70%を超えたのは中1の英語だけである。

国語と数学、理科が2学年ともに60%を下回っている。

平成22年度中学校の県平均通過率(正答率)

	県平均通過率 (%)	設定通過率 (%)	0%	100%
1年国語	55.9%	70.3%		
1年社会	67.5%	70.3%		
1年数学	49.1%	70.0%		
1年理科	56.2%	70.0%		
1年英語	71.4%	70.0%		
1年合計	60.0%	70.1%		
2年国語	53.7%	70.0%		
2年社会	66.3%	70.0%		
2年数学	58.0%	71.0%		
2年理科	53.5%	70.0%		
2年英語	65.6%	70.0%		
2年合計	59.4%	70.2%		

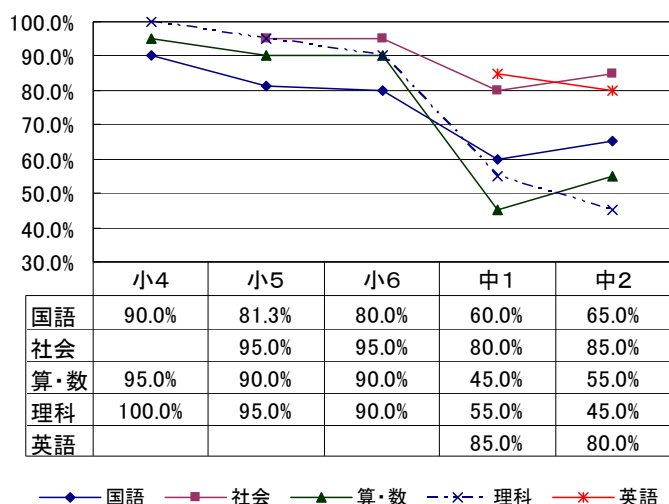
(3) 設定通過率との比較

設問別でみると、小学校で196問中178問(90.8%)、中学校で200問中131問(65.5%)が「おおむね満足」の状況である。

学年・教科ごとに見ると、小学校では全ての教科で80.0%以上で良好な状況である。

中学校では中1、中2の数学と理科で45.0%台や50.0%台であり、課題があると考えられる。

設定通過率に対する「おおむね満足」の割合



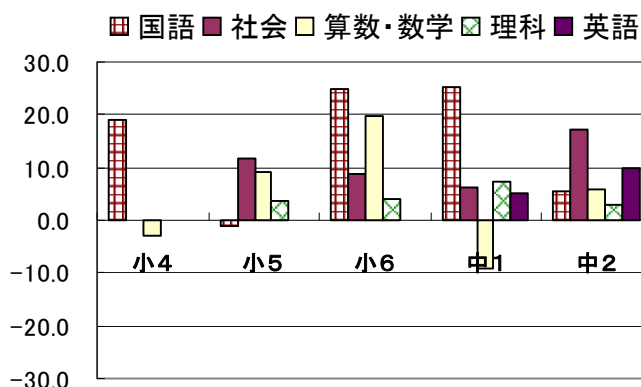
(4) 過去の調査問題との比較

[国の類似問題による比較]

国の通過率を上回った問題数の割合は、小学校では75.6% (45問中34問)で昨年度の71.2% (52問中37問)に比べてやや増加している。中学校では73.8%(42問中31問)であり、昨年度の66.0%(47問中31問)より増加している。

各学年・教科ごとの通過率の平均で比較すると、小4算数、小5国語、中1数学以外では国の通過率を上回っており、良好な状況であるといえる。

過去に国の調査で出題された問題とその類似問題の通過率の差

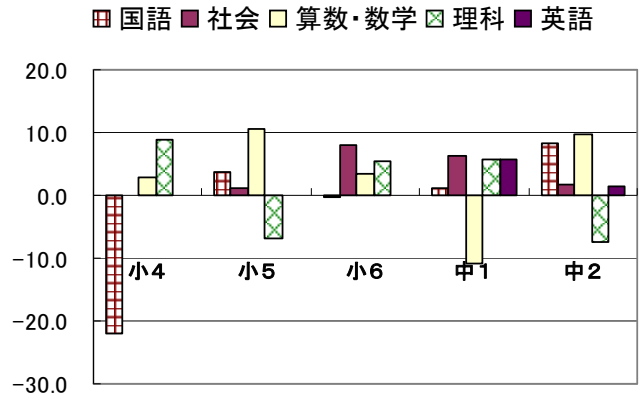


[県の類似問題による比較]

過去の通過率を上回った問題数の割合は、小学校では、67.0% (88問中59問)で昨年度の62.8% (86問中54問)に比べてやや増加している。中学校では、66.2% (68問中45問)であり、昨年度の63.1% (65問中41問)より増加している。

各学年・教科ごとの通過率の平均で比較すると、小学校では、小4の国語、小5の理科、中学校では、中1の数学、中2の理科で下回るなど、引き続き課題と考えられる設問もある。

過去に県の調査で出題された問題とその類似問題の通過率の差



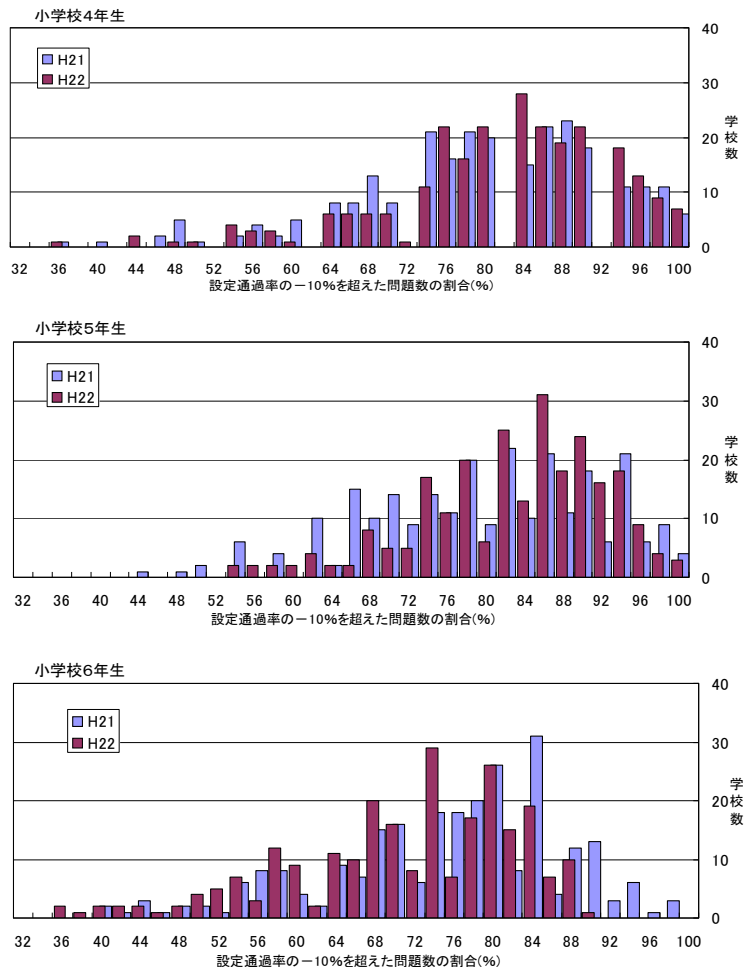
(5) 学力の定着度別学校数

[小学校]

「おおむね満足」の問題数が80%以上の学校は、小4で160校 (64.0%)、小5が167校 (66.8%)、小6が78校 (31.2%) で、小4と小5は昨年度より増加しているが、小6は減少している。

また、「おおむね満足」の問題数が60%未満の学校は、小4で15校 (昨年度19校)、小5で7校 (昨年度15校)、小6で44校 (昨年度35校) と、小4と小5では減少したが、小6は増加している。

「おおむね満足」の問題数の割合ごとの学校度数分布(2か年比較)

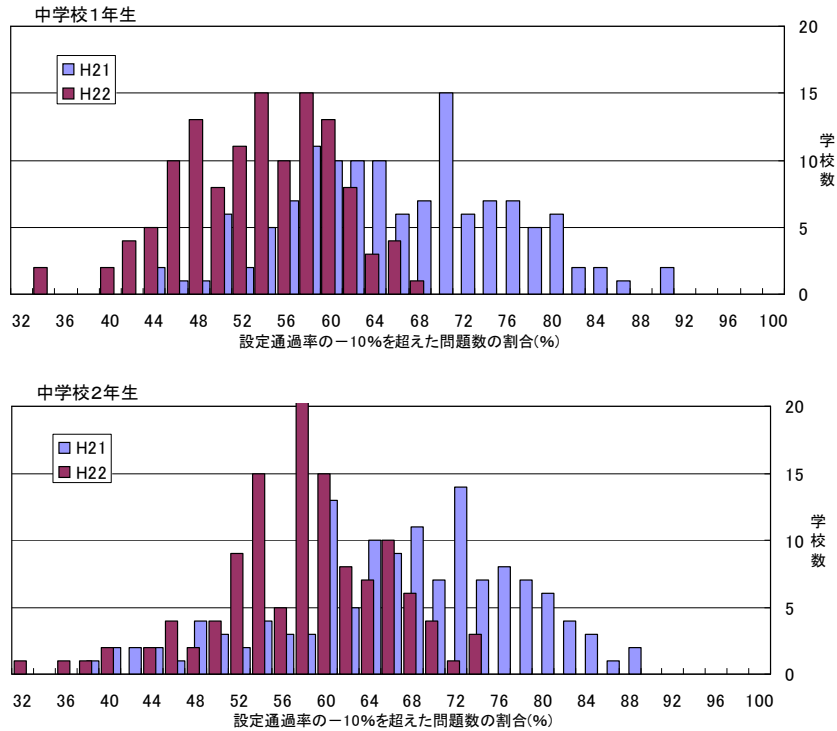


[中学校]

「おおむね満足」の問題数が80%以上の学校は、中1と中2どちらも0校であった。昨年度の中1は13校、中2は16校であり、大幅に減少した。

また、「おおむね満足」の問題数が60%未満の学校は、中1で98校（昨年度36校）、中2で92校（昨年度27校）で、大幅に増加した。

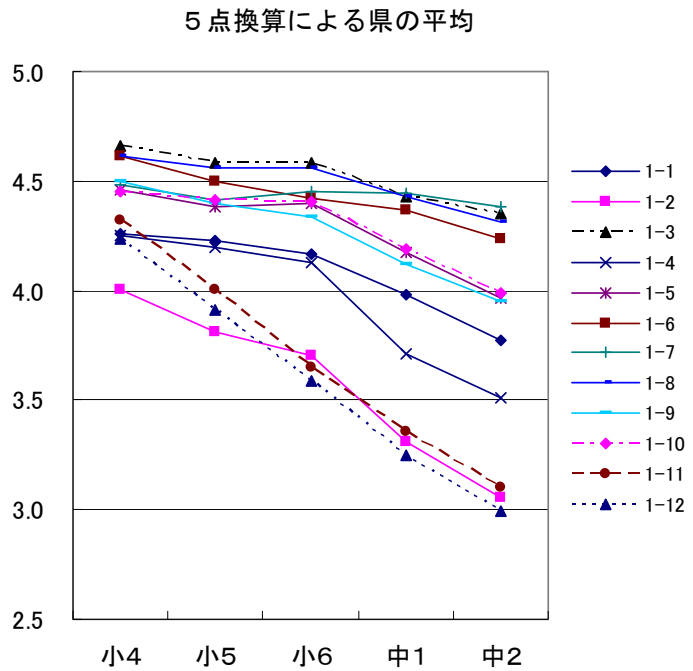
「おおむね満足」の問題数の割合ごとの学校度数分布(2か年比較)



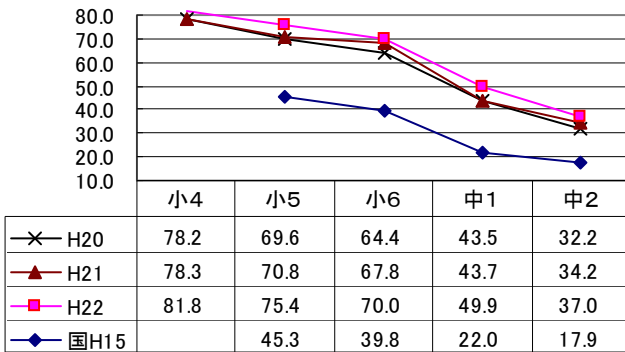
2 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

(1) 学習全般についての結果概要

調査項目
1-1 学校が好きだ
1-2 勉強が好きだ
1-3 勉強は大切だ
1-4 学校の勉強がよく分かる
1-5 勉強は受験に関係なくても大切だ
1-6 よい成績をとれるよう、勉強したい
1-7 受験に役立つよう、勉強したい
1-8 自分の好きな仕事につけるよう勉強したい
1-9 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい
1-10 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい
1-11 お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい
1-12 先生にほめられるよう、勉強したい



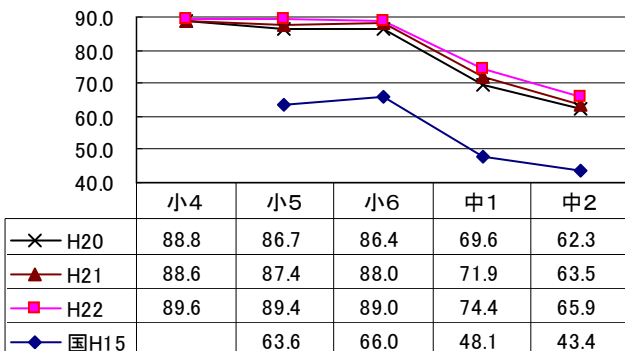
つよく思う…5点 そう思う…4点 そう思わない…2点 まったくそう思わない…1点 分からない・どちらでもない…3点



[勉強が好きだ]

「勉強が好きだ」と思う児童生徒は、H19に比べてH20で減少の傾向がみられたが、H21では増加に転じ、さらに今年度は全ての学年で過去3年間の調査と比較して最高の数値となっている。

学年進行とともに減少する傾向はこれまでと同様であるが、中1が+6.2と大きく増加している。

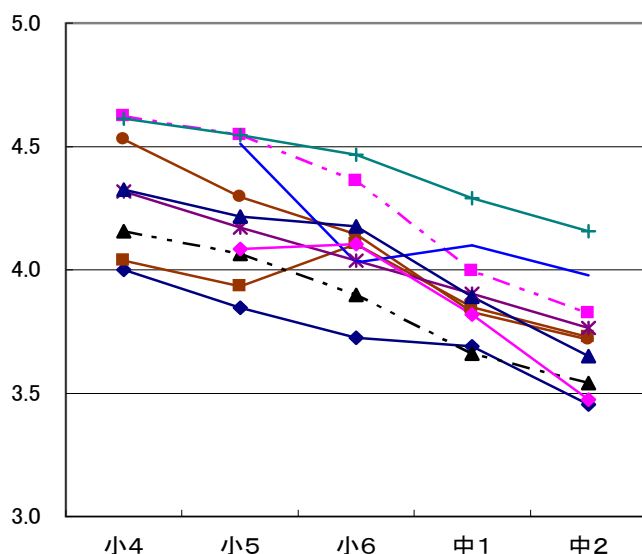


[学校の勉強がよくわかる]

「学校の勉強がよくわかる」と思う児童生徒は、全ての学年で過去3年間の調査と比較して最高の数値となっている。

小学校では、3学年ともほぼ9割と高い。中学校では中1が+2.5、中2が+2.4昨年度より増加した。

(2) 教科等の好き嫌いについての結果概要
5点換算による県の平均



	平均
国語	3.7
社会	3.9
算・数	3.9
理科	4.1
音楽	4.0
図・美	4.3
体・保	4.4
家・技	4.2
英語	3.9
総合	4.1

大好き…5点　好き…4点　きらい…2点　大きらい…1点　分からない・どちらでもない…3点

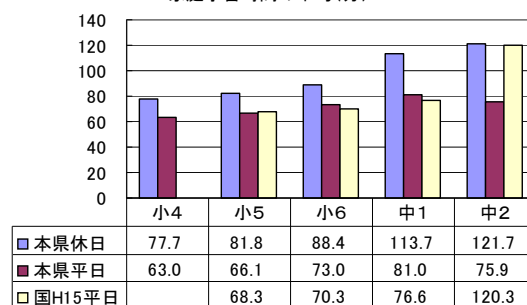
(3) 家庭学習について

[家庭学習時間の平均]

家庭学習時間の平均は、2年連続で各学年とも若干増加している。特に中2の休日の学習時間は18.1分増加した。(H21は103.6分、H22は121.7分)

休日の学習時間については、小学校・中学校ともに、学年が上がるにつれて増加する傾向にあるが、平日の学習時間では、中1よりも中2でやや減少する傾向にある。

家庭学習時間の平均(分)

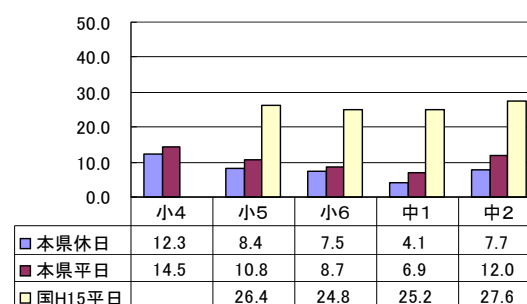


[全くしない、または30分未満の割合]

「全くしない」または「30分未満」の割合は、全ての学年でH15国の調査結果よりも大幅に下回っており、本県の児童生徒は、家庭学習の習慣が身に付いていることがうかがえる。

※4月の全国学力・学習状況調査で小6の平日について全国15.2%に対し本県は5.4%

全くしない、または30分未満の割合

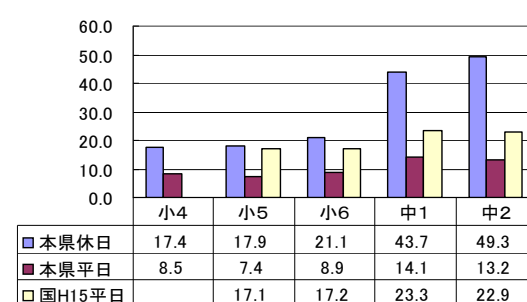


[2時間以上の割合]

2時間以上の割合は、中学生になると大きくなっており、特に中2では、ほぼ半数の生徒が休日に2時間以上の学習をしている。昨年度との比較では中1の平日以外は増加している。

※4月の全国学力・学習状況調査で小6の平日について全国25.7%に対し本県は13.3%

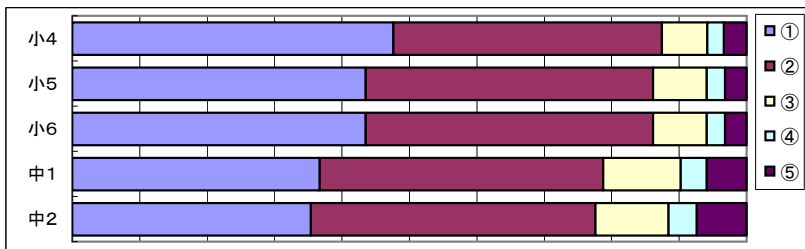
2時間以上の割合



(4) 読書について

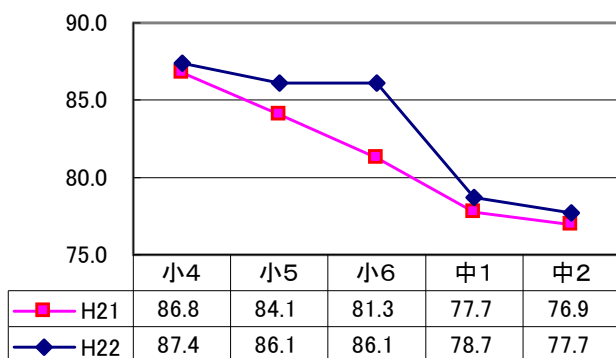
[読書は好きですか]

①つよく思う ②そう思う ③そう思わない ④まったく思わない ⑤分からない・どちらでもない



	①	②	③	④	⑤
小4	47.6	39.8	6.8	2.4	3.4
小5	43.5	42.6	8.0	2.7	3.2
小6	43.5	42.6	8.0	2.7	3.2
中1	36.7	42.0	11.5	3.9	5.9
中2	35.4	42.3	10.8	4.2	7.4

「つよく思う」+「そう思う」の割合

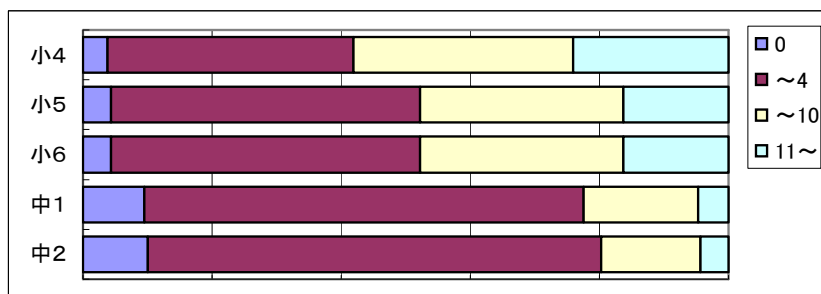


「つよく思う」「そう思う」の割合は、全ての学年で昨年度よりやや増加している。特に小6では、+4.8%であった。

1か月に読む本の冊数については、全ての学年で9割以上の児童生徒が、1冊以上の本を読んでいる。特に、小学校では児童の3割以上が5～10冊の本を読んでいる。読書習慣が定着してきている。その反面、図書館の利用回数は学年進行とともに減る傾向があり、特に中学生になると大きく減少する。

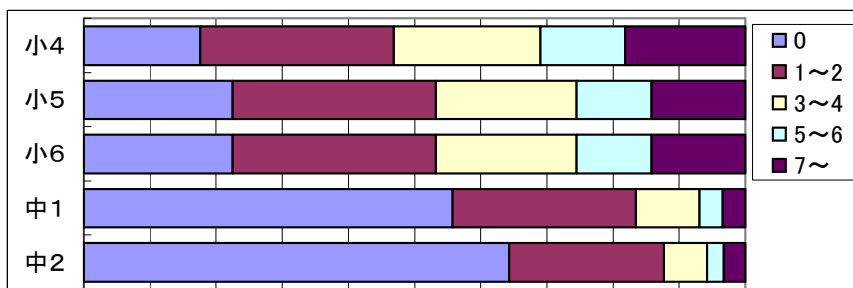
[1か月に何冊くらい本を読みますか]

(教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録は除く)



冊/月	0	~4	~10	11~
小4	3.8	38.1	34.0	24.1
小5	4.3	47.9	31.4	16.3
小6	4.3	47.9	31.4	16.3
中1	9.5	68.1	17.7	4.7
中2	10.0	69.6	15.3	4.3

[1か月に何回くらい図書館を利用しますか]



回/月	0	~2	~4	~6	7~
小4	17.6	29.2	22.1	12.8	18.1
小5	22.5	30.7	21.3	11.3	14.2
小6	22.5	30.7	21.3	11.3	14.2
中1	55.8	27.7	9.7	3.5	3.4
中2	64.4	23.4	6.5	2.5	3.3

3 調査結果の活用と課題への対応

(1) 調査結果および報告書の送付

1 2月の調査実施後、学習状況調査集計・分析システムを活用することにより、全県の集計データを1月下旬に算数・数学学力向上支援 Web ページに掲載した。各学校、各市町村教育委員会ではそのデータを閲覧し、自校と県平均との比較グラフなどをダウンロードするなどして活用している。また、各教科等の考察を加えた報告書を3月上旬に配信した。

(2) 教科に関する課題と対応

中学校における県平均通過率及び設定通過率に対する「おおむね満足」の問題数の割合が低下した原因として、本調査の本年度の特色である全国学力・学習状況調査B問題の出題趣旨を生かした問題を解くにあたり、読解力や記述力が本県の目指す状況に達していないことが考えられる。

また、中学校の数学・理科については、基礎的・基本的な学習内容の定着や計算方法の意味理解が不十分な面が見られる。

その改善の手立てとして、来年度4月の全県指導主事等連絡協議会において、学校訪問の際に次の点について指導・助言を行うよう共通理解を図る。

- ・文章全体を読んで内容を捉える指導に一層力を入れて読解力の向上を目指し、活用に生かす。
- ・必要に応じて既習事項の学び直しの機会や誤答分析の場を設定するなどして基礎学力の定着を図る指導を目指す。
- ・理数教科について、学力向上推進 Web から発信した教育情報を、学校で積極的に活用するよう呼びかける。

(3) 県の課題の提示と補足的な指導の実施

各校に対し、全国学力・学習状況調査の結果及び過去の県や国の調査結果から、県として継続して取り組んでもらいたい課題を、各学年・教科ごとに1～2問提示し、これに各校独自の分析から明らかになった課題を加えて、年度内に児童生徒の課題改善のための補足的な指導を行うこととし、達成目標を含む指導計画を作成しての取り組みを求めている。

補足的な指導は3月までの学年のまとめの時期に実施し、成果を3月末までに検証、報告する。

(4) 学校訪問による指導

全国学力・学習状況調査の結果分析による各校の課題への取り組みと、学習状況調査による検証を支援するため、各学校の要請に応じて学力向上推進班が中心となり、各教育事務所・出張所と協力して、1 2月～2月に算数・数学および国語を中心とした授業改善のための学校訪問を14回実施した。

(5) 来年度以降の授業改善に向けた取り組みの報告

各市町村教育委員会および各学校においては、本調査結果および全国学力・学習状況調査を基に、今年度の取り組みとその成果を分析し、来年度以降の授業改善に向けた方策を3月中にまとめる。